

伊賀市いじめ防止基本方針（中間案）に対するパブリックコメント 意見・提案・回答

番号	箇所	頁	指摘事項・意見	左記に対する回答	方針への反映
1	1 いじめの防止等に関する基本的な考え方 (4) いじめの防止等に関する基本的な考え方	P. 3	<p>いじめの防止策の第一番は家族内での挨拶、朝起きれば「おはよう」、学校に行くときは「行って来ます」下校すれば「ただいま」、当然通学時にも相手に対し挨拶が一番大切であることを百も承知であると思いますが、近年、子供の下校時大人から子供に「お帰り」と声を掛けるも返答なく、たびたびであれば大人と子供の意思疎通が崩れ、思いやりが欠如し、それらのことも一つのいじめへの原因で、いじめ、いじめられが始まるのではないかと思います。</p> <p>さて、60歳の私どもには、子供の頃、鉛筆を削る際ナイフを使い、工作时、彫刻刀を使い失敗し、血を見る怪我をした体験で、いじめても、いじめられても相手の心の痛みが判り、自己及び他人の身体には傷が判り、自己及び他人の身体には傷を及ぼすことがなかったのですが、ここ数年毎日のように新聞に、人を殺した、殺されたと報じられ、このかたわら子供が親を仲間を殺し、自殺したとも報じられる事件が増えました。</p> <p>子供の殺人、自殺のたび学校長が又教育委員会関係者が報道人の前で数人が30秒間、深々と頭を下げ「事実関係を調査いたします」と、子供の教育に専念すべき先生が、父兄に、報道人に、教育委員会にと浪費を費やし、日々何か起こるのではないかと、教育に専念できる土壌が無くなっていくのではないかと危惧しているところです。過去、仲間にいじめられれば、「先生に言いつけてやる」と言われた者は、これはかなわないといじめを止めましたが、今はなぜ陰険ないじめが増えるのか、豊かさを求めるあまり、しつけを教わる祖父母と別居、ろくに「挨拶」が出来ない子供を増やしていますが、止めようがないことで、親にも子供にも「挨拶」をさりげなく教えられる先生であって欲しいと思います。</p>	<p>伊賀市いじめ防止基本方針（中間案）【以下基本方針（案）とする】</p> <p>1（4）アに「全ての児童生徒をいじめに向かわせることなく、心の通う対人関係を構築できる社会性のある大人へと育み」とあるように、いじめの防止のために、「挨拶」を含めた心の通う対人関係の構築は重要です。</p> <p>いじめ防止等を推進する上で今後の取組の参考にします。</p>	無

2	<p>3 学校におけるいじめの防止等の取組</p> <p>(3) 学校におけるいじめの防止等に関する措置</p> <p>イ 早期発見</p>	P. 8	<p>「このため、日頃から児童生徒の見守りや信頼関係の構築等に努め、児童生徒と向き合うことにより、児童生徒が示す変化や危険信号を見逃さないようアンテナを高く保つとともに、定期的なアンケート調査に加え教育相談の実施等により、児童生徒がいじめを訴えやすい体制を整え、いじめの実態把握に組織的に取り組みます。」ということ事ですが、いじめられている児童生徒は、「自分がいじめられているということを、周囲の大人や家族に知られたくないものであることが多い」と言われていることから、変化の兆候を見つけるのは非常に困難だと思われます。</p> <p>そうした中で、私がいじめ自殺の報道を見聞きして一番腹立たしいのは次の点です。</p> <p>「いじめは知っていた」とたくさんの生徒が、いじめ自殺後のアンケートで答えるケースです。一例として、 http://www.sankei.com/west/news/151105/wst1511050043-n1.html より引用させていただきます。以下引用</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>名古屋中1自殺 20人「いじめ見た」3人「本人から相談」57人「聞いたことある」 市教委調査【自殺問題】中1男子生徒の死亡について、名古屋市役所で記者会見する市教委の担当者＝2日午前</p> <p>「学校でいじめを受けた」と遺書を書き名古屋市内の地下鉄駅で市立中学1年の男子生徒（12）が自殺した問題で、市教育委員会は5日、在籍する中学の生徒約500人にアンケートした結果、20人がいじめを見たと回答していたと発表した。本人から相談を受けたと回答した生徒は3人、本人以外から「いじめがある」と聞いた生徒は57人に上った。これまで学校は男子生徒へのいじめを把握しておらず、あらためていじめへの対処の難しさが浮き彫りとなった。</p> <p>市教委の三浦友久指導室長は「結果を重く受け止める。いじめがあったことを前提にして調査を続ける」と述べ、男子生徒の父親は「勇気を出して回答してくれた生徒に感謝したい」とのコメントを発表した。</p>	<p>基本方針(案)2(6)ア(オ)にありますように、各学校において、学期に1回以上のアンケート調査に加え、教育相談等を実施するなどして、いじめの実態把握を進めています。</p> <p>アンケートの市内における実施状況やいじめの把握状況、その後の対応等に関して、方針施行後発足する伊賀市いじめ問題対策連絡協議会に情報提供をし、審議概要を教育委員会のホームページに掲載していく予定です。しかし、アンケート結果すべてを公表することは考えていません。</p> <p>次に、「いじめを早期発見する具体的な良い方法はないか?いじめを訴えたときに隠蔽などされず一番良い対応をしてあげられる方法</p>	無
---	--	------	--	--	---

		<p>アンケートは4日に実施。いじめをうかがわせる項目を挙げ、「直接現場を見た」「本人から聞いた」「本人以外から聞いた」「いずれもない」の四つの選択肢の中から答えてもらった。伝聞にはメールや無料通信アプリLINEの情報も含まれるとした。その結果「冷やかしか悪口、脅し文句を言われていた」の項目では、13人が目撃したと回答、本人以外から聞いたとする生徒が39人に上った。他に「仲間外れにされていた」という項目では6人が、「軽くぶつかられたり、たたかれたりしていた」では3人が目撃したと回答。「嫌なことや恥ずかしいことをさせられていた」「金品を隠されたり、盗まれたりしていた」という項目でも、それぞれ1人が目撃したと答えていた。いじめを目撃した場面を尋ねると、男子生徒が所属していた卓球部での部活動中と9人が回答。それ以外の学校生活が10人で、1人は無回答だった。</p> <p style="text-align: center;">↑ここまで引用</p> <p>こういう報道を見るたび、私はいじめを見たという20人はいじめを見た時点でなぜ報告しなかったのか？本人から相談を受けたと回答した生徒3人は何もできなかったのか？いじめがあるらしいとうわさを聞いた57人は何をしたのか？何かできたのではないか？『男子生徒の父親は「勇気を出して回答してくれた生徒に感謝したい」とのコメントを発表した。』私なら、「自殺という最悪の結果になる前に勇気を出して回答してくれる生徒が多くなる世の中にしてもらいたい」とコメントしますし、「勇気を出さないと回答できない」としたならば、それがそもそもおかしい。と思います。「勇気を出さなくてもいじめがあつたら、当然のように何のとまどいもなく、すぐに報告」というのが普通になるべきです。</p> <p>早期発見は重要だと思います。大人は気づきにくいですが、子どもは気づいているはず。定期的なアンケート調査の内容を公表してもらいたいのですし、(アンケートの文章、時期回数などの公表)その内容についての結果も公表していただきたいと思います。そういうことを方針に盛り込んでいただきたいです。</p>	<p>はなにか？いじめを抑止する方法はないか？」について、方針(案)3(3)イに「ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階的に関わりを持ち、いじめを隠したり軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知します」とあり、いじめを隠蔽する事は許されません。</p> <p>さらに、現在においても、いじめの事案が起きれば、学校から教育委員会に報告する義務があり、この基本方針のもと、市長にも報告するシステムが構築されます。</p> <p>教職員が積極的にいじめを認知していく事が、いじめの早期発見、早期対応につながっていくと考えます</p> <p style="text-align: center;">基本方針(案)3(3)</p>	
--	--	---	--	--

		<p>なぜならば、以下にあげるような例があるからです。 http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201507/20150715_33014.html より引用 <矢巾中2自殺>女子生徒もいじめ被害、不登校に◎学校、町教委へ報告せず「いじめ件数ゼロ」</p> <p>岩手県矢巾町で中学2年の村松亮君（13）がいじめを苦にして自殺したとみられる問題で、同じ学年の女子生徒が昨年、「クラス内でいじめを受けている」と学校に相談していたことが14日、分かった。担任教諭は相手生徒を指導したが、学校の組織的対応はなく、町教委へも報告していなかった。女子生徒は取材に「学校が昨年度のいじめ件数ゼロとしているのはうそだと思った」と話している。</p> <p>女子生徒は昨年4月中旬から、同じクラスの複数の生徒から無視されたり、掃除当番の教室に入れなくされたりなどのいじめ被害を受けた。5月に担任教諭に相談。担任は翌日、クラスの女子全員に注意した。担任は7月、女子生徒がいじめを受けたと指摘した生徒たちと面談したが、嫌がらせは続いた。女子生徒は1年生の3学期に不登校になり、2年生になっても通学できていない。女子生徒は「いじめだと学校に相談した。この学校のいじめについて全て明らかにしてほしい」と訴えている。女子生徒は2年生に進級して、村松君と同じクラスになり、休日はゲームでよく遊んだという。「村松君からいじめの相談はなかった。心配を掛けなくなかったのだと思う。大事な友達だった」と振り返った。女子生徒の母親は「娘が被害に遭ったとき、担任はよく対応してくれた。いじめは二度と起きないよう学校にお願いした。学校が対策を取っていれば、村松君が亡くなることはなかったと思う」と話した。町教委は「いじめが要因で不登校になった生徒がいるとの報告は受けしていなかった。調査して真偽を確かめたい」と説明した。</p> <p style="text-align: center;">↑ここまで引用</p> <p>上記の例では、勇気のある、女子生徒が、いじめがあると学校に報告したにも関わらず、町教委には伝わっていなかったということです。</p>	<p>学校におけるいじめ防止等に関する措置アの「いじめの防止」、イの「早期発見」、ウの「いじめに対する措置」にあるように、取り組めます。</p> <p>ご提案については、今後の取組の参考にします。</p>	
--	--	--	--	--

		<p>このような事では「言ったけど、対応してもらえなかった。どうせ言っても無駄だ。絶望した。死ぬしかない。」ということになってしまいます。そうした事を防ぐためには、「伊賀市はもしもいじめの申告があったら、絶対に守ります。対応します。隠しません。」という強い姿勢を見せることが重要だと思います。「いじめを訴えたのに対応してもらえない。隠蔽された。」ということを防ぐために、いじめは学校の担任に言うのではなく、いきなり同時に「市長直接、教育委員会直接、当該学校長直接」3者に同時に報告するというシステムを作ってはいかがでしょうか??そうすることによって、担任が「クラスでいじめが発生したと校長に報告したら、担任の力量を疑われるので報告しないで置こう。対応を教職員会議で会議するのも苦痛だし自分でなんとかしよう。」そうではなく、担任がもしも校長に報告したとして、校長が「校内でいじめが発生したと教育委員会に報告したら、校長としての評価が下がるから報告しないで置こう」ということが防げると思います。よく報道で聞くのが教育委員会「いじめがあるとは知らなかった。」学校「いじめはなかった。と認識していた。」</p> <p>もしも伊賀市はいじめを防止するために、たとえば、「市長直接、教育委員会直接、当該学校長直接」同時にいじめを訴える。というシステムであれば、「知らなかった」というようなことはありえないはずです。</p> <p>上記のような「知らなかった」で済まさないための方法を考えるべきだと思います。そこまですることによっていじめを防止できるのではないのでしょうか?「いじめをしたら、絶対に被害は報告される。絶対に隠蔽されない。加害者も絶対になんらかの指導、処分を受ける。」ということであれば、加害者側への抑止力になるのではないのでしょうか?</p> <p>中間案にも書いてあるように、いじめは加害経験、被害経験とも9割を超えるとのことです。自殺という最悪の結果だけが報道されますが、それは氷山の一角そこに至らないが、ひどい苦痛を受けている児童生徒はたくさんいると考えられます。また、いじめを完全に根絶することは不可能だと思います。いじめをなくすということだけを考えるのではなく、いじめ</p>		
--	--	--	--	--

			<p>を受けたときの被害者の心のケア、対応、転校や、「嫌だったら学校に行かなくてもいい、それでも幸せな未来が作れる」ということを教えて夢をもってもらえるシステムを作ってもらいたいと思います。死ぬくらいなら、不登校の方がずっとよいと思います。</p> <p>以上のようなことから、伊賀市いじめ防止基本方針を作るにあたって、「いじめ防止基本方針を作っていたから伊賀市はきちんといじめに対応していた！！」ということは何かがあったときの言い訳に使うために、あるいは「いじめ防止対策推進法」が施行されたからとりあえず作らないといけないから作る。というのではなく、この「伊賀市いじめ防止基本方針」があれば「いじめが本当になくなりそうだな？」と思えるような方針を作っていたらいいと思います。いじめを早期発見する具体的な良い方法はないか？いじめを訴えたときに隠蔽などされず一番良い対応をしてあげられる方法はなにか？いじめを抑止する方法はないか？という点を具体的に方針に入れていただきたく、意見させていただきます。</p>		
3	<p>1 いじめの防止等に対する基本的な考え方 (2) いじめ防止等に関する基本理念</p>	P. 2	<p>いじめは、どの子供にもどの学校にも起こることをふまえ、学校だけでなく、家庭、地域がともに「いじめは絶対許されない。」という共通認識が必要だと思えます。また、いじめを生まない環境をつくるために関係機関が一体となって取り組んでいく他、児童生徒個々の中で、豊かな気持ちを養うとともに、安心できる環境で互いの人格を尊重できるようにすることが、大人の責務だと考えます。なぜなら、「子どもは大人の背を見て育つ」からです。</p>	「いじめは絶対許されない」という共通認識を持ち、学校が家庭や地域、関係機関と連携し、いじめを生まない環境を構築していきます。	無
4	<p>3 学校におけるいじめの防止等の取組 (3) 学校におけるいじめの防止等に関する措置 ウ いじめに対する措置</p>	P. 8	<p>加害生徒の出席停止の期間だけでなく、学校に登校してからもしっかりと見ていき、対処していくことが大切だと思えます。</p>	<p>加害生徒については、基本方針(案)3(3)ウにあるように「教育的配慮の下、毅然とした態度で指導」していきます。</p>	無

				そして、「教職員全員の共通理解、保護者の協力、関係機関・専門機関との連携」し、登校してからも対応していきます。	
5	3 学校におけるいじめの防止等の取組 (3) 学校におけるいじめの防止等に関する措置 ア いじめの防止	P. 8	いじめの発端は、陰口・悪口と思いましたが、小学校の高学年、中学校の一、二年では、友人（相手）に言った言葉が、言われた本人にとって悲しみであったり、困った事だとは意識しないで話している場合があります。私も子供の頃、友人の一人の人が言っている言葉をあの人が、貴女の事をこう言っていたと話していたところ、聞かされた友人は悲しそうな表情をなされたので、その時は、こんな事を言っではこの人を傷つけてしまうと思いましたが、今の時代では、メールとかネット上での会話で相手の表情はわかりません。子供時代は相手がどんな気持ちになるか、言っている本人も悪気もなく言って相手を傷つけたりしながら言っているいい事、悪い事を分かりつつ大人に成長していく一過程だと思えます。 メール、ネットでの言葉は相手がその言葉でどんな気持ちになったか、喜んでいるか、困っているか、お互い表情はわかりません。ついエスカレートするのではないでしょうか。私の考えですが、メールの機具、ネットの使用はお酒、たばこの様に、成人してから使っでいいという風が出来ないかと思っています。	現在の児童生徒のメール、ネットの活用状況から、基本方針（案）3（3）アにあるように、インターネット上のいじめの防止については、携帯電話やインターネットの正しい利用方向や危険性についての理解を深め、インターネットを利用するためのスキルを向上し、情報モラル教育を推進していきたいと考えます。	無
6	4 重大事態への対処 (1) 重大事態とは	P. 9	いじめで重大事態になってから心のケアをされる方をおく前に、子ども同士は同じ遊び仲間（大人になれば仕事仲間になると思います）で、私の子供の頃には先生が昼休みに出て来て皆でする遊びを教えて下さいました。冬には、おしくらまんじゅうとかなわとび、今でもレクリエーションを専門に勉強をしている方が居られると思います。そんな人を市の方に2、3	ご意見については、今後のいじめ防止対策等を推進する上で取組の参考にします。	無

			人いてもらって、各学校を回り、子供に遊びを教えていったらいいと違いますか。遊びの中で、上手な子供が主になって皆をまとめて遊ぶ様にもなっていくと思います。		
7	4 重大事態への対処 (4) 調査	P. 10	いじめで事故が起こってからの調査に、有識者、警察、市長に報告。確かに事後調査必要かも知れませんが、それは今迄にあった事故調査を参考にして事故が起こらない様考えるべきだと思います。 一番いたましい自殺はどんな事が起こっても自分は衣食住と多くの人の手に守られての今で、どんな人でも誰が考えて下さったのか、冬は長袖の温かい服、夏は涼しい半袖と皆誰もがお互いに皆に守られているのです。 どうか余り思いつめないで生きていて頂きたいと思います。	あくまで、重大事態が起きた場合、伊賀市いじめ問題調査委員会で再調査を実施します。 ご意見のように、重大事態が起こらないよう、取組を進めていきますし、万が一、起きた場合も調査だけでなく、その後のいじめ防止等についても、伊賀市いじめ問題調査委員会で検討していきます。	無